

| 論文の和文要旨                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                   |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 論文<br>題目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | <p style="text-align: center;"><b>国際連携教育プログラム評価に関する研究</b></p> <p style="text-align: center;">ー中国の高等職業教育における日本語学科の教育プログラムを中心にー</p> |
| 氏名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | <b>陳要勤（チンヨウキン）</b>                                                                                                                |
| <p>本研究は国際連携教育プログラム評価に関するもので、中国の高等職業教育における日本語学科の留学・技能実習両プログラム評価を中心にした研究である。高等職業教育は即戦力の実践型人材の育成を目指した知識・技能を習得させる教育である。中国では実践型人材を育成する高等職業教育に注力している。とりわけ、第4次産業革命の新たな波が、中国経済の発展・転換と同時に押し寄せており、また、中国政府は2049年までに世界の製造業をけん引する製造強国になるという目標を掲げているため、実践型人材のニーズがますます高まっているのである。中国における高等職業教育は学生の職業素養と職業能力を養成することで、生産・管理・業務・サービス等各分野の高素養労働者・技能人材を育成する使命を担っている。高等職業教育を担う教育機関は主に職業技術学院である。</p> <p>職業技術学院は社会の人材ニーズを踏まえ、世界に目を向けて、様々な教育改革を試みながら、実践型人材を育成するように努めている。その一環として、職業技術学院は国際連携教育プログラムにも注力しているが、質保証の観点から、プログラム評価は不可欠である。情報が飛び交うグローバル社会で、職業技術学院における国際連携教育プログラムを系統的に評価し、その結果をプログラムのステークホルダーと関係者に発信し、プログラムの改善点を提示することが急務になっている。</p> <p>本研究では、アンケート、インタビュー、事例研究等の方法を用いて、職業技術学院における日本語学科の留学・技能実習両プログラムの質評価に焦点を絞る。</p> <p>第1章では、職業技術学院における日本語学科の国際連携教育とプログラム評価の必要性を述べた。中国の社会・企業における日本語人材の要望に対応するために、職業技術学院の日本語学科(下記は「日本語学科」と略称する)は人材育成目標を「高素養＋実践型」の日本語人材の育成と明確に示している。学習者が社会実践を通じ、知識を構成する学習法は社会構成主義における重要なポイントである。この考え方に基づき、学生に実践の機会を与えるために、日本語学科は日本での留学・技能実習プログラムを開発・実施している。そのプログラムに対する評価はプログラムの質改善・質向上に繋がり、学生の進路の設計にも役立ち、ステークホルダーとの協同にも有利であり、さらに</p> |                                                                                                                                   |

は評価モデルの発展にも有益であると考えられる。

第2章では、教育プログラム評価に関わる先行研究をレビューし、結果を次の4点にまとめた。1点目は、教育プログラムを評価する際、プログラム参加者の資質と能力の向上を目的とするプログラム評価は、教育評価の方法を取り入れる必要があるという点である。2点目は、教育プログラムのステークホルダーは、立場によって、プログラムへの要望が様々であるため、評価者は各ステークホルダーの声を評価の参考にすべきであるという点である。その際、社会構成主義の視点から、CIPP (Context、Input、Process、Product の略語) モデルを用いた体系的な評価がプログラムの質改善と関係者の意思決定に役立つと考えられる。3点目は、日本語学科の人材育成に関する研究には、社会・企業との連携の必要性和対策方法を論じたものはあるが、その連携に関する評価の研究は少ないことである。4点目は、グローバル社会においては、国際間の教育連携はさらに緊密になり、関連の教育プログラムが増える一方、質保証も課題になっており、質の維持と改善をするには、プログラム評価が欠かせないということである。しかし、国際間の連携教育プログラムを対象にしたプログラム評価の先行研究は管見の限り、見当たらず、そうした研究が求められている。

第3章では、研究目的、研究方法と分析の枠組みを述べた。研究目的は、日本語学科の日本留学・技能実習両プログラムは設定された教育目標に達したのか、プログラムの参加者、送り出し側と受け入れ側はプログラムの内容と効果をいかに評価したのか、CIPP モデルに基づく留学プログラムと技能実習プログラムの評価結果はどうなったのか、プログラム別に評価はどう違ったのかについて探ることである。さらに、社会的構成主義を活用して、プログラムの改善対策を提言することである。

研究方法としては、まず、中国全国の職業技術学院の日本語学科における日本での留学・技能実習プログラムに対する評価をそれぞれのプログラム参加者と送り出し側のプログラム担当者向けにアンケート調査(4種類)で行った。次に、職業技術学院の優秀な代表校(P職業技術学院)を対象として、事例研究を行った。また、P職業技術学院の留学・技能実習両プログラムのそれぞれの参加者、送り出し側・受け入れ側のプログラム担当者を対象に、各プログラムの評価についてインタビューを行った。そのうち、留学・技能実習両プログラムの評価結果を比較した。

第4章では、質問紙調査に基づく留学プログラム評価を行った。中国全国の日本語学科出身の日本留学プログラム参加者向けにアンケートと、送り出し側のプログラム担当者向けにアンケートを配布し、その回答(有効回答数はそれぞれ126部と37部)を記述統計と $t$ 検定、 $F$ 検定、カテゴリー分けなどの手法で分析した。

分析結果は次のとおりである。1 点目、留学プログラムの教育効果は送り出し側の期待にほぼ応えている。2 点目、送り出し側での異文化交流関係のコース、送り出し側からの出国手続きへのサポート、送り出し側による留学中の学生へのサポートとの 3 つの項目に対する満足度については、双高校（国家重点校）グループのほうが非双高校（非国家重点校）グループより高い。3 点目、留学プログラムのうちに、受け入れ先による支援などに対して、学士学位を目指すプログラムグループが他のプログラムグループより満足度が高い。最後に、上記の結果を考察し、プログラムのステークホルダーの参与能動性はプログラム効果と緊密に関連しているということが示唆された。

第 5 章では、質問紙調査に基づく技能実習プログラム評価を行った。中国全国の日本語学科出身の日本技能実習プログラム参加者向けにアンケートと、送り出し側のプログラム担当者向けにアンケートを配布し、その回答（有効回答数はそれぞれ 46 部と 31 部）を記述統計、 $t$  検定、 $F$  検定、カテゴリー分けの手法で分析した。

分析結果によると、送り出し側での協定書の内容、実習中による学生への支援、日本語能力の変化、異文化交流能力の変化等に対する満足度について、双高校グループのほうは非双高校グループより高いとことが明らかになった。プログラム運行中に、送り出し側と受け入れ側は学生のニーズを充足し、ステークホルダーの間の緊密な連携と良好な関係を築くのはプログラムの運営に有利であるということが示唆された。

第 6 章では、質問紙調査に基づく留学・技能実習両プログラムの評価結果の比較を実施した。まず、プログラム別に、留学・技能実習両プログラムの総合満足度評価結果を  $t$  検定で分析した。次に男女別に、そして双高校と非双高校別に、両プログラムにおける各項目の総合評価に関する比較を行った。

データ分析を通じて、両プログラムの評価結果には共通点と相違点があることが明らかになった。共通点には、両プログラムの効果がともに送り出し側の人材育成目標を達成したと考えることができる。一方、教育方法と学生への支援に関して、両プログラムの送り出し側と受け入れ側との接続の不十分さが指摘された。

相違点に関しては、受け入れ側による日本滞在中の学生への支援、学生の資質・専門能力、異文化コミュニケーション能力の変化、プログラム全体の教育効果に対する満足度では、留学グループのほうが技能実習グループより高い。また、女子・男子両グループと非双高校グループにおいて、受け入れ側による日本滞在中の学生への支援に対する満足度では、留学グループのほうが技能実習グループより高い。それらの理由については、前者の学生のほうが異なる他者との関わり合いが多く、能力が高まるのではないかとことが考えられた。

第7章では、中国の優秀な職業技術学院の代表のひとつであるP職業技術学院の留学・技能実習両プログラムについて事例研究を行った。同学院の日本留学・技能実習両プログラム参加者、送り出し側と受け入れ側のプログラム担当者向けにインタビューを実施した。得られた回答を基に、プログラム別にCIPPモデルに基づくプログラム評価満足度を時系列に沿って、分析した。さらに、インタビューによる留学・技能実習両プログラム評価の結果を比較した。前章の結果がプログラムステークホルダーの語りによって、さらに明らかになった。さらに、技能実習プログラム参加者にとって、人間関係が問題になりやすいことも明らかになった。その結果から、活動空間の広さによる他者との触れ合い機会にも差が生じ、学生の人間関係に影響を与えるという点が指摘された。

第8章では、総合考察を行った。まず、送り出し側と受け入れ側での教授法・指導法について、学生の学習の能動性の観点から検討した。送り出し（中国）側での教授法に満足度が低い要因は、送り出し側では知識伝授型教育が多いのに対し、受け入れ（日本）側では学生の能動性を要求するケースが多い。その違いもあって、学生は日本での留学・技能実習の生活に慣れるまで時間がかかると考えられる。また、学生の資質・能力の養成については、学生の日本語能力、異文化コミュニケーション能力、自立能力、実践力の向上は社会文脈において、他者と触れ合い、関係性を作り、繋がりを強化し、実践を積み重ねることによって得られるものとみることができる。また、送り出し側と受け入れ側の連携の不十分さに関して、ステークホルダーがプログラムについての情報発信と情報共有、プログラム活動に深く関与していないためだと考えられる。

第9章では、本研究をまとめるとともに、社会構成主義の観点から提言を行った。また、本研究の意義と今後の課題を示した。本研究によって、日本語学科で実施している日本での留学・技能実習プログラムはステークホルダーの目的をほぼ達成していることが分かった。このことから、日本との留学・技能実習プログラムは今後も存続する可能性が高い。そのためには、さらなるプログラムの質向上を図る必要があり、プログラムステークホルダーの間の「関係性」をさらに緊密にすることが重要である。ステークホルダー間の能動性を引き出し、信頼関係を深め、相互作用を促進することはプログラムの円滑な接続に有利であり、それが学生の成長に寄与すると考えられる。またCIPP評価モデルは連携教育プログラムの評価には有効であるとの示唆を得ることができた。今後、別の教育プログラムへの利用も進めたい。